

# やめよ！徳山ダム

徳山ダム建設中止を求める会通信

No. 8 ( '97. 2. 10 )

事務局 ☎ 0584(78)4119

大垣市本町2-27 FAX 0584(82)4119

## 2 / 7 徳山ダム建設事業審議委員会終了

### 「早期完成」の“意見”を提出

審議委員の顔触れを見るだけで「ゴーサイン答申」は、当初から明らかでした。第4回審議委員会で館委員長(\*)は「私の中では答申案はできている」と発言し、「審議」が内実のないものであることを吐露していました。

\*委員長館正知氏は、かつてイタイイタイ病裁判で企業側の立証に手を貸し、川崎の大气汚染公害裁判では建設省側の証人に立ち、先日の岐阜県知事選では梶原後援会の「名誉顧問」を務めた人です。「学識委員」といわれる人達の「公正さ」が、どういう種類のものなのかが、推測できます。

建設省が「公共事業の客観性・透明性を高める」という鳴り物入りで設置した各地の審議委員会でしたが、「凍結」などを決めた審議委員会も含めて、本当に新たな観点から「見直し」ができたところは皆無とっていいでしょう。

徳山ダム審議委員会で、建設省側は、以前に比べれば多くの資料・情報を公開しました。これまで隠されていた新たな問題も表に出てきました。例えば①「徳山ダム集水域は日本有数のイヌワシ・オオタカの生息地である」こと、②「名古屋市は徳山ダムの新規利水の半分を返上する」ことなどです。こういう問題を正面から審議するなら、審議委員会はそう簡単に「早期完成」を言えないはずですが、ところが、建設省側はこういう問題が出すときには、必ず言い訳も準備して出します。①「調査を継続し、専門家の助言を得て工事を進めるという方法もある」、②「名古屋市の返上分は濁水対策に使うという方法もある」、というように。そうすると「イヌワシが居るなんて聞いていなかった」「人間あつての自然なのだから、鳥より人だ」と不満を述べる委員、「名古屋が今さら返上と言い出すなど許せない、濁水のとくも水はやらない」と息巻く委員も含めて、争うように建設省の言い訳提案に賛意を表すのです。建設省自身が期待(?)する以上に、「大型公共事業を持って来なくてはいけない」「建設官僚に逆らってはいけない」と固く信じている“学識”委員、自治体関係委員の姿に、現状における日本の情けない地方行政と民主主義の水準を見る思いがします。

私たちは、発足時の委員の構成をみても、その後の継続的な傍聴を通じて、審議委員会に期待するところは全くないと思っていましたので、今回の「早期完成意見」については、「出るものが出た」としか思えません。私たちの運動は、正にこれからだと考えています。

とりあえず、2 / 16 (日) 13:30~16:30 大垣スイトピアセンター

建設省との対話 第2回 にご参加を。

2月8日に以下のような要望書を出しました。

## 要 望 書

建設省中部地方建設局長 井上 靖武 様

1997年2月8日

徳山ダム建設中止を求める会 代表 上田武夫

2月7日、貴職及び水資源開発公団中部支社長が委嘱された「徳山ダム事業審議委員会」が「意見」を出しました。審議委員会発足時より、私たちが機会あるごとに指摘してきた通り、当該「審議委員会」は、事業の「見直し」のできる委員の構成ではありませんでした。事実、私たちは審議委員会を継続的に傍聴してきましたが、審議の名に値する内実は存在しませんでした。審議委員長は、すでに第4回の審議委員会で「私の中では答申はできあがっている」と発言されましたが、2月7日の「意見」はその後明らかになった問題一切を無視（大型猛禽類が多数生息している事実については言及せず、調査も始まったばかりの現時点で「専門家の指導・助言を得て～事業を進める」としている）あるいは糊塗（名古屋市の水利権返上は、計画の根幹の変更であるにもかかわらず、事務局の示唆通り「漏水対策に充当する」とし、費用分担などの重要問題を隠している）して成立しており、この1年余の審議委員会が空しいものであったことが明らかになりました。

建設省は、「事業の見直し」「透明性、客観性を高める」目的をもって「試行」してきた「事業審議委員会」が掲げた目的を達成できる条件のなかったことを率直に認め、改めて事業に関心を持つ地域住民の意見に直接耳を傾けるよう、強く要望いたします。

(1) 徳山ダム事業審議委員会が、「見直し」の名に値しない内容であったことを率直に認め、その旨本省に具申すること。

(2) 全く新たな「見直し」のシステムを作るために、全国の市民・住民から出されている意見を十分に尊重すること。

(3) 徳山ダムについて、以下の諸点を早急に検討し、その内容を公表すること。

### ① 治水について

- ・計画のもととなる昭和35年の水位流量曲線の誤りを率直に認め、新たに計画を立て直すこと。
- ・その際、徳山ダム建設を前提とすることなく、様々な方策とその費用を住民に示すこと。・実際に浸水被害に遇っている地域については、具体的で効果のある治水対策を直ちに行うこと。

### ② 「名古屋市の返上分を漏水対策に充当する」という議論について

- ・徳山ダム事業計画に全く存在しない事柄を新たに付け加えることであり、すでに水利権として費用分担の設定されている分を他に振り替えることとなる。計画の根幹が崩れたことを明確にすること。
- ・漏水対策のための導水事業など、新たに必要な支出金額を明らかにすること。

### ③ 新規利水について

- ・岐阜県は「水は必要」と言っているが
  - a 岩屋ダムの工業用水が現在までほとんど使われておらず、水需要予測に現れる数字（使用水原単位、回収率）は中部地方建設局が3県平均として示す値とは掛け離れた異常なものであること。
  - b 西濃地区市町村が地下水などの自己水源を放棄となっていることを、住民が知らされていないこと。

④ 「治水」「漏水対策」「新規利水」について、費用負担の額を、実際に負担する当該自治体住民に明らかにすること。

### ⑤ 大型猛禽類の生息とその保護について

・調査は始まったばかりであり、「工事を進めながらの調査・保護策」は不可能である。直ちに工事を凍結すること。

・環境庁の指針でも、イヌワシの保護策の第一は「ダム等の建設を避ける」となっていることに十分留意すること。

徳山ダム集水域の貴重な文化財や山林の保全、移転住民・水源地住民の生活、活断層と地震など、他にも論議すべき重要問題は多々あります。今後も市民との対話を十分に行い、各自治体の住民の声を聞き取り、河川審議会答申の内実を早急に実現する方向で河川行政を転換していく、勇気ある決断をお願いしたいと存じます。

以上

中部地方建設局のFAX番号は以下の通りです。

建設省中部地方建設局

FAX 052-953-8471 (河川調整課)

名古屋市中区三の丸2-5-1 合同庁舎2号館 建設省中部地建

## 「徳山ダム・建設省との対話」 第2回

2 / 16 (日) 13:30~16:30 スイトピアセンター第5会議室

主なテーマは「審議委員会とは何だったか」「徳山ダムによる治水の疑問点」「環境—大型猛禽類」について。できるだけ会場からの発言の機会を多くしたいと考えています。多くの方々のご参加を。

◎「建設省との対話」は今後もねばり強く継続していくつもりです。

◎事業者が「早期着工」をしたくても用地問題が解決していません。共有林の所有者の中には、明確にダム建設に反対しておいでの方も居られます。こちらの運動を広げることで、そういう方々への精神的「支援」を強めたいと思います。

◎「大垣市の水問題」（“おいしい水道水”が高くて塩素臭い水になる）、「徳山ダム集水域の大型猛禽類」など、各個別領域を中心に運動する運動体も、形成していきたいと思っています。何かお知恵があれば、お貸し下さい。

☆ 2 / 14 (金) 午前8:30~9:30

大垣駅前 宣伝活動 ご参加頂ける方がありましたら、幸いです。

☆ 次回の拡大事務局会議は 3 / 8 (土) 午後1:00~事務局で行います。

☆ 徳山ダム建設中止を求める運動について、インターネットのホームページは

「地域情報システム研究所」 <http://www.alato.or.jp/makoto/> です

(MAKOTO・Mさんのご協力による)

## 岐阜県知事選について

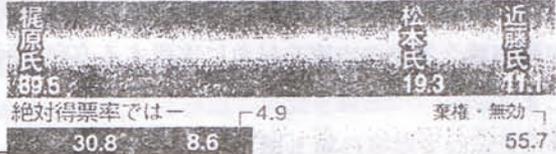
徳山ダム建設中止を求める会の有志が、岐阜県の市民運動の仲間とともに、岐阜県では史上初、他府県でもそうは多くない「全くの無党派」、無組織で知事選を戦いました。

当然ながら「岐阜県議会53人中52人の与党」を背景とする現職の壁は厚かったのですが、既成の組織に頼らなくても、選挙も戦える、ということを示せたのは、貴重なことだと思います。とりわけ、町長襲撃の町、御嵩町では数字の結果も出せました。（御嵩町は“超保守の町”とも言われ「梶原圧勝の可能性がある。下手に知事選に触れると、産廃肯定のように受け取られるのではないか」という心配から、運動を進める人達が、知事選については表立って口ににくい状況がありました。その状況下での数字です）運動を軸に進んでいけば、地方政治も国政も変えられる、という希望と確信を得ました。

### 岐阜県知事選確定得票

当 499,766 梶原 拓 無現<sup>◎</sup>  
(自進民公)  
138,848 松本 稔 無新  
(共)  
80,116 近藤 正尚 無新

3候補の得票率(%, 小数第2位を四捨五入)



#### 御嵩町の得票数

梶原 拓氏	3,262 (39.72%)
松本 稔氏	2,463 (29.99%)
近藤 正尚氏	2,487 (30.28%)
計	8,212

「やめよ！徳山ダム」の紙面を借りて、岐阜県知事選挙に関しての、皆様のご協力・ご支援にお礼申し上げます。 徳山ダム建設中止を求める会・事務局 近藤正尚

今回の知事選に際して、県内各地で様々な支援を献身的に行って下さった方々に、心からお礼を申し上げます。また、全国各地からたくさんのカンパを寄せて下さった方々にも厚くお礼を申し上げます。

今回の選挙は12月19日の出馬表明以来、1カ月もない慌ただしさにおいまくられました。しかし、岐阜県のような超保守といわれる県でも、無党派無所属の市民型選挙が可能であること、市民の感覚に根差した政策が1割余の支持を得たということの2点において、今後につながる無限の可能性を示せたという成果はあったと自負致します。

また、どの政党を支持するのではないが、政治的に自覚した投票行動をとる層が、少なくとも何パーセントか存在することを実証する意義もあったと思います。

ただ、法定得票には達したものの10万票には至らず、あと一息という感が否めないのは文字通り残念という他はありません。

歴史的な評価は今後の我々の運動のありようにもよると思いますが、いずれにしろ、今回の選挙が岐阜県の民主主義を1歩前進させたことは間違いありません。皆様と共に主体的に係ることができたことを大変光栄に存じます。

2月5日

近藤正尚

◇ 法定得票を得たことで、皆様のカンパで、およその費用を賄うことができました。ありがとうございました。